

# 浜松市デジタル・スマートシティ 官民連携プラットフォーム 第5回運営委員会

令和3年3月18日



- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 浜松市デジタル・スマートシティ構想
- 4 マイナンバーカード利活用促進部会の設置について
- 5 (仮) スマホやICTお出かけ講座
- 6 浜松ORI-Projectの報告
- 7 来年度の取組
- 8 スーパーシティへの応募について
- 9 意見交換
- 10 閉会

## 2 あいさつ



委員長（浜松市副市長）

長田 繁喜

## 1. 会議参加時

---

- 基本的に「ビデオはON」、「音声はOFF（ミュート）」

## 2. ご発言時

---

- オンラインでの参加者  
「音声をミュート解除」し、最初にお名前をお伝えいただいたのちにご発言ください。
- 現地参加者  
お手元のマイクにてご発言ください。

# 3 浜松市デジタル・スマートシティ構想

# パブリック・コメントの実施

- 令和3年1月25日～2月24日にかけて、構想案に対するパブリック・コメントを実施。
- 71人・6団体から、210件ご意見が寄せられた。現在、ご意見に対する市の考え方を公表中。

## 意見数

210件（提案 4件、要望 149件、質問 57件）

## 案に対する反映度

案を修正したもの	13件
今後の参考としたもの	107件
既に案に盛り込み済のもの	12件
その他	78件

### 【案の修正内訳】

✓ 用語の説明の修正	11件
✓ P14「1オープン／相互運用性」 「GitHub」→「GitHub等」修正	1件
✓ P22 ※23浜松ORI-Project の説明追加	1件

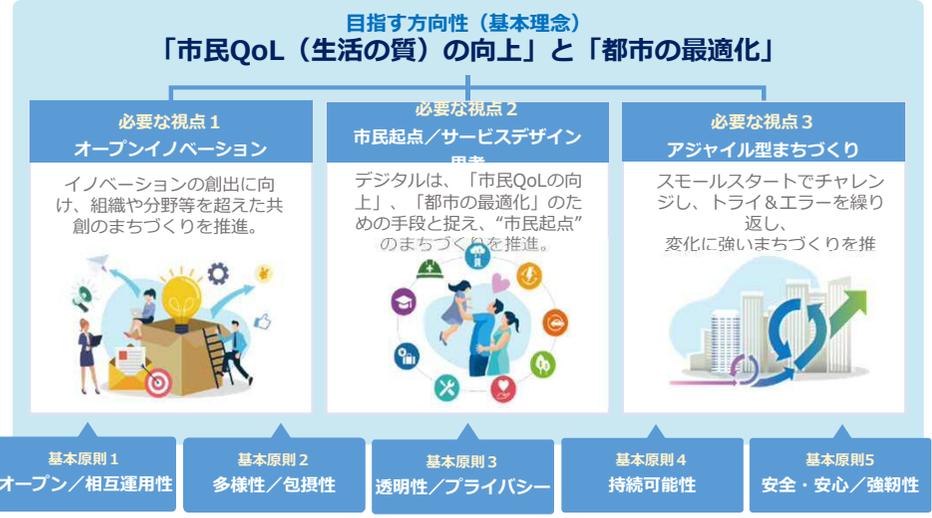
## パブリック・コメントの主な意見と市の考え方

主なご意見	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>専門用語が多く内容が伝わりづらい</li> <li>本文中の用語の付近に解説を記載してほしい</li> </ul>	①用語の直後に（）書きで説明を記載、②本文中の用語の付近に説明を記載し、「VI 用語の説明」に掲載する用語を最少限にした。
<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化による格差への危惧</li> <li>高齢者に配慮した取組をしてほしい</li> </ul>	デジタル活用を「手段」と捉え、多様で包摂的な社会を目指した取組を推進する。高齢者等には、来年度からPF会員と連携し「スマートフォン講座」の開催を予定。
<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の管理に対する懸念</li> <li>プライバシー保護を徹底してほしい</li> </ul>	個人情報の利用には本人の同意を大前提とし、 <u>透明性の確保や個人情報・プライバシーの保護に配慮して取り組む。</u>
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設や中山間地域における通信環境整備の希望</li> </ul>	協働センターや核となる音楽ホールへのインターネット環境の整備を検討する。また、光ファイバ網の未整備地域において民間事業者の整備に対する支援を行う。
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民への情報提供をしてほしい</li> <li>市民の声を反映する機会をつくってほしい</li> </ul>	出前講座の実施や、個別のプロジェクトを進めていく中で、 <u>市民の方への説明を丁寧にするとともに意見を伺いながら取組を推進していく。</u>
<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーシティにおける情報管理についての疑問など</li> </ul>	スーパーシティにおいても、個人情報は、個人情報保護法や浜松市個人情報保護条例に基づき、適切に取り扱っていく。

## 将来像

### ～ デジタルで“繋がる未来”を共創 ～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoL（生活の質）の向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。



## 推進体制とエコシステム（好循環）

官民共創によるまちづくりを進め、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。



### 【推進体制】

- 「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」(PF)を中核に官民共創でデジタル・スマートシティを推進。
- PFは各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ活用を推進。
- PFは民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム及びコーディネーターの機能を担う。

### 【目指すエコシステム（好循環）】

- ベンチャー企業などから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- 実証実験は「国土縮図型都市・浜松」の多様なフィールドを活用。
- 実行・検証・改善を繰り返し、社会実装へとつなげる。

市民は、実証実験への参加やサービスを選択する形で「市民QoL向上」に貢献。

企業は、地域課題の解決に貢献することでイノベーションや新たなビジネス創出の機会とする。

## デジタルで“繋がる未来”の概観

デジタルの力を最大限に活用し、「課題解決型のアプローチ」と「未来に夢と希望を持てるチャレンジ」を組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を創造します。



### デジタルで“繋がる未来”のキーワード

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワークや多拠点居住の促進）

## 第一期（2020年度～2024年度）における重点取組分野

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、①本市の強みを活かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナのニューノーマルや安全・安心への対応、③課題解決型アプローチによる持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組みます。

### ① 浜松の強みを 唯一無二のものに

#### ウエルネス

- 「予防・健康都市浜松」実現に向けた官民連携
- 健康情報を活用した生活習慣病等の予防・改善
- 介護ロボット等の活用による介護従事者の負担軽減
- AI等を活用した健診（検診）の受診率向上

#### 音楽文化・ エンターテイメント

- デジタル技術を活用した文化事業の実施
- ニューノーマル時代のエンターテインメントの新たな楽しみ方の創出と普及
- インターネットを活用した音楽文化等の発信とリモートによる国際交流の推進

#### 産業（ものづくり・農林業）

- 国土縮図型都市・浜松のフィールドを活用した新たなサービスやソリューションの創出
- サテライトオフィス等を活用したベンチャー企業等の誘致
- 先端技術を活用するスマート農林業の推進
- 中小企業の生産性向上に向けたIT（情報技術）・IoT等の活用支援

#### 観光・商業

- デジタル・マーケティングの活用による情報発信
- 新しい生活様式に即した観光の活性化と賑わいの創出
- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- キャッシュレスの推進
- デジタルを活用したインセンティブ（報奨、奨励）付与による誘客や消費活性化の研究

### ② 浜松らしい ニューノーマル社会の実現を目指して

#### リモートワーク・ 多拠点居住

- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- リモートワークやテレワークの推進
- テレワークパーク構想の推進
- 副業・兼業人材の活用促進

#### 教育・ 子育て

- GIGAスクール構想の実現に向けた教育環境整備
- オフライン授業とオンライン授業のハイブリッド（組み合わせ）による持続可能な教育の推進
- ICT（情報通信技術）等を活用した子どもや子育て世代への効果的な情報提供や相談体制の構築

#### 見守り・ 災害対応

- IoT等を活用した高齢者や子どもの見守り推進
- 災害予測や災害状況の効果的な把握
- 災害関連情報の効果的な提供
- 避難所の効果的な3密対策

#### デジタル・ ガバメント （電子行政）

- 書面規制・押印・対面規制等の見直し
- 行政手続きのオンライン化やキャッシュレスの推進
- マイナンバーカードの取得促進とマイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充
- 多様な伝達手段による情報の提供
- AIやICT等の活用による生産性の向上
- DX推進に向けた職員の人材育成

### 第一期

## デジタル・ スマートシティ 浜松 の基礎固め

### ③ デジタルの力で持続的・包摂的社会を構築

#### モビリティ （移動・物流）

- モビリティとサービスの連携による持続可能なまちづくりの推進
- モビリティサービス推進コンソーシアムを中核とした官民連携によるプロジェクトの創出
- 医療MaaSの推進
- フードデリバリープラットフォームの推進
- テレワークパーク構想の推進

#### インフラ （社会生活基盤）

- ドローンやセンサー等の活用によるインフラの老朽化対策
- 点群データなどインフラ情報のデジタル化
- 都市のデジタル化推進におけるインフラの利活用や高度化の検討

#### 社会参加促進

- AIやICT等の活用による障壁の除去
- バリアフリー情報等のオープンデータ化の促進
- 情報へのアクセシビリティの向上
- ICT技術やSNS等を活用した市民参加の促進
- シニア向けスマートフォン講座等の充実

#### エネルギー・循環型社会

- 「浜松市域”RE100”」の実現に向けた推進
- スマートコミュニティ、スマートタウンのモデルの構築
- スマートプロジェクトの実現
- 新清掃工場及び新破碎処理センターをモデルとしたサーキュラーエコノミーの推進

### ④ 共創の基盤を構築しより強固なものに

#### 官民共創による 推進体制の強化

- 浜松市フェロー等外部人材の活用
- 官民共創によるプロジェクト創出に向けたアイデアソン等の開催
- 次代を担う若者世代の巻き込み
- 官民連携プラットフォームを活用した分野間の連携促進
- シビックテックとの連携や共創

#### データ連携基盤の整備や オープンデータの拡充

- データ流通のハブ（中継地）となるデータ連携基盤の整備と利活用
- データ連携基盤の活用事例の創出（「ORI-Project」の推進）
- オープンデータプラットフォーム(ODPF)の整備と利活用
- 点群データのオープンデータ化と利活用促進

#### 人材育成

- 次代を担う若者の育成
- データ活用に関するセミナーやハッカソン等の開催
- シニア向けスマートフォン講座等の充実
- 人材育成におけるリモートやオンラインセミナー等の活用
- 人材育成における大学やCode for Japan等との連携

#### 通信基盤等の 整備や利活用促進

- 中山間地域等への光ファイバ網の整備支援
- 5Gアンテナ基地局の設置や利活用の促進
- 各種通信（高速・低速等）活用の事例の共有と横展開
- 活用事例の創出やニーズ喚起による各種通信インフラ整備の働きかけ

# 浜松市デジタル・スマートシティ構想（案）

## 【解説版】



## 現状と課題

人口減少・少子高齢化

インフラ老朽化

気候危機・自然災害の  
激甚化

COVID-19

⋮

- 従来の方法や体制では解決が困難な状況
- まちづくりや都市経営に新たな視点や変革が求められている

## デジタル活用による課題解決への期待の高まり

先端技術や様々なデータを活用し、官民連携で地域課題の解決や産業の活性化など、よりよい暮らしの実現を目指す「デジタル・スマートシティ」への期待が国際的に高まっている。

浜松市  
デジタル  
ファースト宣言  
(2019年10  
月)

「都市づくり」「市民サービス」「自治体運営」にデジタルファーストで取り組むことを宣言。  
「デジタル・スマートシティ」の取組を始動。

## 国の政策動向やまちづくりの潮流

「新たな日常」構築の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備

### デジタルニューディール

次世代型行政サービスの  
強力な推進

DX（デジタル・トランス  
フォーメーション）※の推進

※DX（デジタル・トランスフォーメーション）：  
データとデジタル技術を活用して、組織や仕組み等を抜本的に変革すること。

新しい働き方・暮らし方

変化を加速するための  
制度・慣行の見直し

### 「新たな日常」が実現される地方創生 多核連携型の国づくり、地域の活性化

東京一極集中型から  
多核連携型の国づくりへ

地域の躍動に繋がる  
産業・社会の活性化

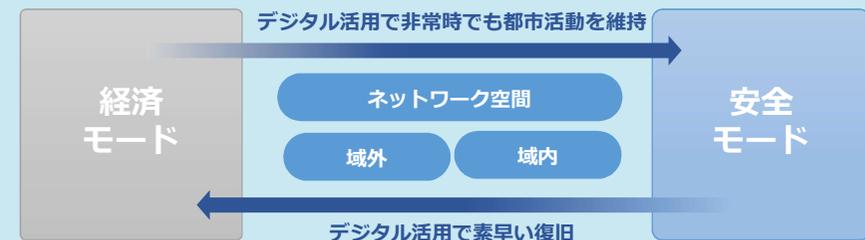
- スマートシティの社会実装を加速化
- 二地域居住、兼業・副業支援強化

- データ・情報共有によるサプライチェーン（供給網）全体の効率化
- オープンイノベーションプラットフォーム※の構築

※オープンイノベーションプラットフォーム：  
(出所) 内閣府 経済財政運営と改革の基本方針2020 オープンイノベーション（後述）を促進するための環境

### COVID-19/災害激甚化に対応する持続可能な社会

### デュアルモード社会の構築

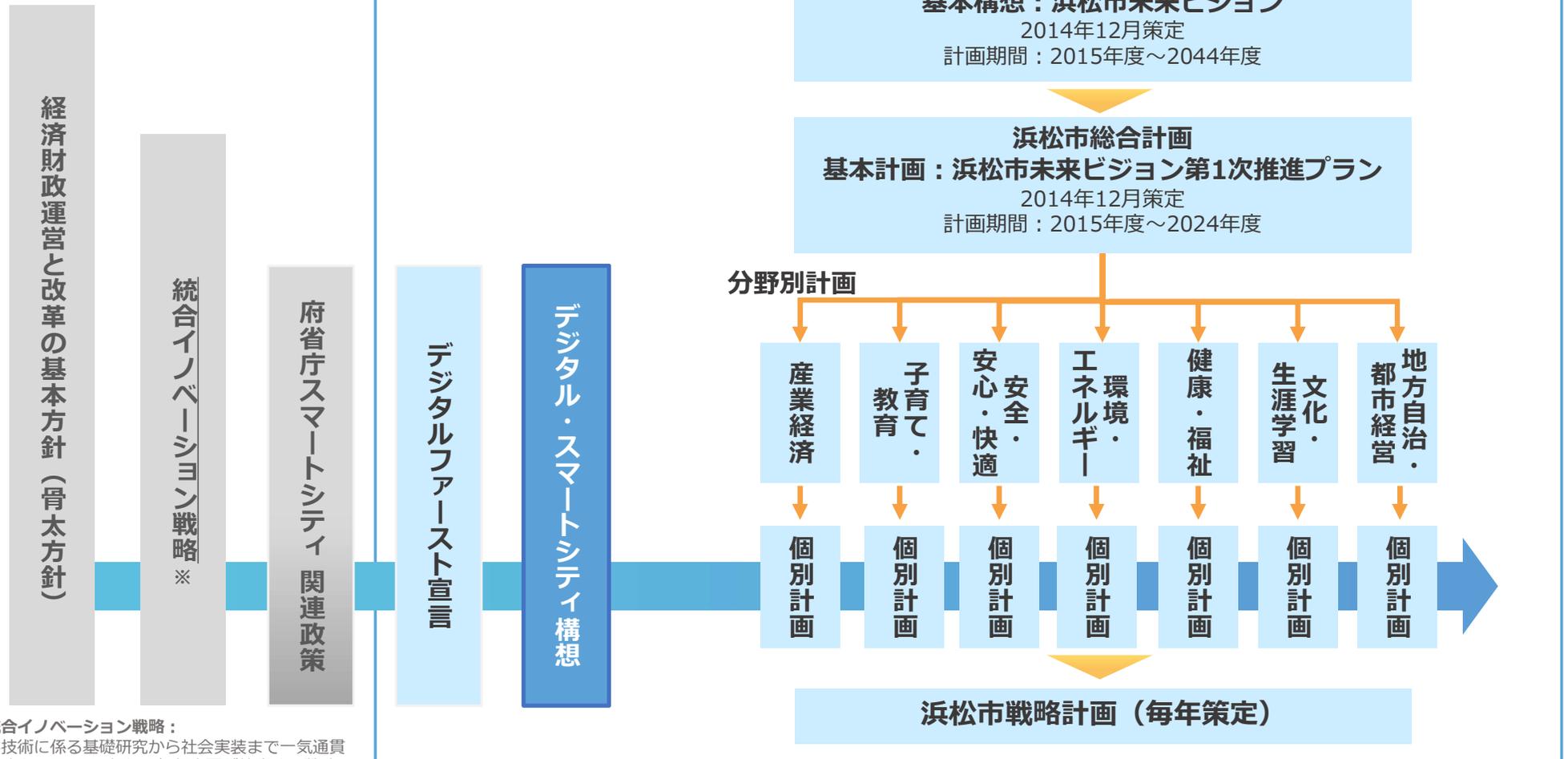


## ■ 構想策定の趣旨

「浜松市デジタルファースト宣言」に基づき、都市づくりをデジタルファーストで進めるデジタル・スマートシティ政策の指針として策定し、多くの方々と共有し、官民共創で“デジタル・スマートシティ浜松”の実現を目指します。

## ■ 構想の位置付け

「浜松市デジタル・スマートシティ構想」は、本市の最上位計画である総合計画に基づく個別計画であるとともに、デジタル活用の観点から分野横断的な取組の指針となるものです。



※統合イノベーション戦略：  
科学技術に係る基礎研究から社会実装まで一貫通貫の戦略として2018年から毎年度国が策定する戦略。

## 将来像

### ～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoL（生活の質）の向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

#### 目指す方向性（基本理念）

キュー・オー・エル

### 「市民QoL（生活の質）※の向上」と「都市の最適化※」

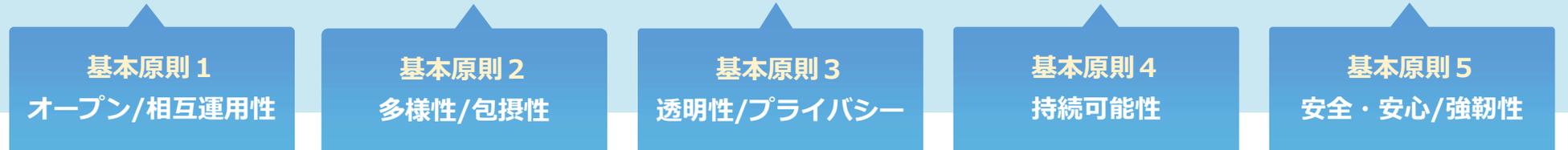
※QoL：「Quality of Life」の略。人々の幸福感など、社会のゆたかさや生活の質のこと。

※都市の最適化：都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、効果的・効率的な都市計画、都市整備、都市管理・運営を実現すること。

【必要な視点（説明P6）】



【基本原則（説明P7）】



デジタルの力を最大限に活用し、「課題解決型のアプローチ」と、「未来に夢と希望を持てるチャレンジ」を組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を共創します。

## 【文化・芸術】



デジタル活用で世界と音楽で繋がり、デジタル・音楽・芸術が融合した新たな文化を浜松から発信。

## 【健康・医療・福祉】



アイ・オー・ティ 遠隔医療やIoT※を活用した見守りでどこでも安心して生活。エーアイ AI（人工知能）がデータに基づきお薦めの食事や運動を紹介してくれて、いつまでも健康に生活。

※IoT：「Internet of Things」の略。様々なモノが、インターネットを通じて相互に情報交換をする仕組み。

## 【教育】



世界の学校と繋がりオンライン留学。AIが自分にあった学習メニューを推薦。年齢に関係なく、誰でも多様な学ぶ機会があり、いつでもチャレンジ可能。

## 【社会参加】



高齢者や障がい者、外国人、女性、誰もがデジタル技術に支えられ、社会と繋がり、それぞれの力を発揮。

## 【産業】



ドローンやロボットの活用で省力化と生産性が向上。AIやビッグデータ※を駆使し、付加価値が向上した儲かる農林業が実現。

※ビッグデータ：スマートフォン等を通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビでの視聴・消費行動等に関する情報、また小型化したセンサー等から得られる膨大なデータのこと。

## 【移動・物流】



どこにいてもドローンで好きなもの・サービスがいつでも届く。免許を返納してもライドシェア（相乗り）や自動運転で自由にごどこへでも移動。



※デジタル・スマートシティのイメージ図であり、都市構造を示すものではありません。

## 【行政サービス】



スマホ1台でどこでもいつでも簡単手続。必要な情報は必要な時に届き、困ったときは、24時間、AIコンシェルジュ（案内人）が対応。職員の対面相談も選べる、便利で安心な市役所。

## 【防災】



センサーのデータやAI予測により危険を回避。被害を最小限に抑え、災害の状況もリアルタイムで可視化。大切な人や情報、支援に繋がり安全安心な社会を実現。

## 【デジタルで“繋がる未来”のキーワード】

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワーク※や多拠点居住※の促進）

※リモートワーク：情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。  
 ※多拠点居住：都市部や地方部に複数の拠点をもち、定期的に地方部で仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つ。

## Ⅲ－２ 取組推進に必要な視点

デジタル・スマートシティの推進にあたっては、以下の3つの視点で取り組みます。

### 視点1

#### オープン イノベーション



- 市民、NPO団体、企業、大学、行政など多様な主体が自律的に参画し、組織や分野を越えた共創のまちづくりを推進することで、イノベーション（革新的な技術や新たなサービス・仕組み）の創出を目指します。
- オープンであることや相互運用性等を大切にし、創発性の高い環境を構築します。

### 視点2

#### 市民起点/ サービスデザイン 思考



- デジタル化を市民に強いたり、技術やソリューション※ありきではなく、デジタル活用はあくまで市民QoL向上や地域課題解決の手段と捉え、利用者の目線による“市民起点”のまちづくりを推進します。  
※ソリューション：課題を解決することや、そのために提供されるシステム。
- サービスやソリューションの創出にあたっては、利用者目線で考える“サービスデザイン思考”で取り組みます。

### 視点3

#### アジャイル※型 まちづくり

※アジャイル：  
【Agile】「俊敏な」「すばやい」  
という意味の英単語。



- スモールスタート※で果敢にチャレンジし、実行・検証・改善を繰り返すことでニーズに合ったサービスやソリューションを創出します。  
※スモールスタート：  
新たな事業やプロジェクトを立ち上げる際に、最初は機能やサービスを限定するなどして小規模に展開させること。
- 環境変化のスピードが速い時代において、作りこみすぎないことや回遊性の担保などに配慮し、変化に強い、しなやかなまちづくりを推進します。
- 本市の目指す拠点ネットワーク型都市構造の実現にも貢献します。

官民共創やアジャイル型のまちづくりを支える共通のルールとして、以下の5つを基本原則としてデジタル・スマートシティを推進します。

## 1 オープン／相互運用性

- データを流通させることで新たな価値を生み、多様な主体が参加することでイノベーションを創発するため、オープンであること、そして、相互運用性が高いことを原則とします。  
(オープンな議論の場、オープンデータ<sup>※</sup>、オープンソース<sup>※</sup>、標準API<sup>※</sup>、GitHub<sup>※</sup>等を活用したオープンな開発等を推奨)
- ※オープンデータ：官民データのうち、誰もがインターネット等を通じて容易かつ無償で利用できるように、公開されたデータのこと。
- ※オープンソース：ソフトウェアのソースコード（ソフトの内容）を公開して、改良や再配布を認めるという考え方。
- ※API：外部のソフトウェアの機能を共有できる仕組み。
- ※GitHub：他の開発者と一緒にソフトウェアの開発等を行うことができるプラットフォーム。

## 2 多様性／包摂性

- デジタル化を人に強いるのではなく、あらゆる人の社会活動や都市運営をサポートするツールとして活用していきます。デジタルで高齢者、障がい者、外国人、女性をはじめ、すべての人の社会参加を支え、多様で包摂的な社会を目指します。
- 先端技術やデータの活用の効果は、経済性や効率性だけでなく、課題解決への寄与など社会的なインパクトを大切にしていきます。

## 3 透明性／プライバシー

- データの流通や活用には、信頼関係の構築が欠かせません。信頼関係の構築のため、透明性の確保や個人情報・プライバシーの保護に配慮して取り組んでいきます。
- 収集されたデータは、ダッシュボード<sup>※</sup>やBIツール<sup>※</sup>等を活用し、積極的に可視化していきます。また、データに基づく政策形成（EBPM）や合意形成などのまちづくりにも活用していきます。
- ※ダッシュボード、BIツール：データを統合、分析、可視化するソフトウェアやツールのこと。

## 4 持続可能性

- 新たなサービスやソリューション、事業の立ち上げにあたっては、設計や実証実験の段階から、運用面、財政面において持続可能であることが重要であることを十分に認識し進めていきます。
- 財政的な負担においては、受益者を意識した設計を行うとともに、資金調達においては、既存の枠組みに捉われない持続可能な調達のあり方を検討していきます。

## 5 安全・安心／強靱性

- 自然災害やパンデミック（世界的大流行）、サイバー脅威（コンピュータシステムに対する電子的攻撃など）、その他トラブルによる障害が生じても最少限の都市機能を維持し、早急に復旧できるよう配慮した、システムや体制の構築に努めます。

「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」を中核に、官民共創でデジタル・スマートシティを推進し、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。



## ■ 推進体制

- 官民連携プラットフォームは、各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ利活用を推進。
- 官民連携プラットフォームは、民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム（サービスの基盤をユーザーなどに提供する事業者）及びコーディネーターの機能を担う。



## ■ 目指すエコシステム（好循環）

- ベンチャー企業などから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- 実行・検証・改善を繰り返し、社会実装へと繋げる。

### 【市民】

市民は、実証実験への参加やサービスを選択するという間接的な参加やシビックテック※など直接的な参加を通じ「市民QoL向上」に貢献。

※シビックテック：  
シビック（Civic：市民）とテック（Tech：テクノロジー）を掛けあわせた造語。  
市民自身が、テクノロジーを活用して、行政サービスの問題や社会課題を解決する取り組みをいう。

### 【企業】

企業は、地域課題の解決に貢献することで新たなビジネスやイノベーションの創出の機会とする。

### 「国土縮図型都市・浜松」の多様な実証フィールドの活用



中山間地域

郊外

都市部

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、①本市の強みを活かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナ※のニューノーマル※や安全・安心への対応、③課題解決型のアプローチにより持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組みます。

※ウィズコロナ、ポストコロナ：新型コロナウイルスの流行に即した今とこれからを指す。  
 ※ニューノーマル：新型コロナウイルス感染症の流行を経て移行する人々の行動・意識・価値観の新たな常態・常識のこと。

## ①浜松の強みを 唯一無二のものに

- ウェルネス※
- 産業（ものづくり・農林業）
- 音楽文化・エンターテインメント
- 観光・商業

※ウェルネス：  
幸福で充実した人生を送るために、毎日の生活を見直し、生活習慣を改善しようとする考え方、健康観。

## ②浜松らしい ニューノーマル社会の実現を目指して

- リモートワーク・多拠点居住
- 見守り・災害対応
- 教育・子育て
- デジタル・ガバメント（電子行政）

第一期

## デジタル・ スマートシティ 浜松 の基礎固め

## ③デジタルの力で持続的・包摂的社会を構築

- モビリティ（移動・物流）
- 社会参加促進
- インフラ（社会生活基盤）
- エネルギー・循環型社会

## ④共創の基盤を構築し より強固なものに

- 官民共創による推進体制の強化
- 人材育成
- データ連携基盤※の整備やオープンデータの拡充
- 通信基盤等の整備や利活用促進

※データ連携基盤：  
複数のシステムに蓄積されたデータをつないで、各システム等で利用できるようにするための仕組みのこと。これにより1対1で結合されていたシステム・サービスの壁を越えて様々なデータを様々なシステム・サービスで利活用することが可能になる。

## (1) 浜松の強みを唯一無二のものに

※番号を付した用語はP21～P22で説明

### ウェルネス

背景：健康寿命3期連続日本一



- 「予防・健幸都市浜松」実現に向けた官民連携
- 健康情報を活用した生活習慣病等の予防・改善
- 介護ロボット等の活用による介護従事者の負担軽減
- AI等を活用した健診（検診）の受診率向上



### 産業（ものづくり・農林業）

背景：世界的なものづくり企業の立地  
スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市※



- 国土縮図型都市・浜松のフィールドを活用した新たなサービスやソリューションの創出
- サテライトオフィス※2等を活用したベンチャー企業等の誘致
- 先端技術を活用するスマート農林業の推進
- 中小企業の生産性向上に向けたIT（情報技術）・IoT等の活用支援



### 音楽文化・エンターテインメント

背景：世界的な楽器メーカーの集積  
ユネスコ創造都市（音楽分野）※3



- デジタル技術を活用した文化事業の実施
- ニューノーマル時代のエンターテインメントの新たな楽しみ方の創出と普及
- インターネットを活用した音楽文化等の発信とリモートによる国際交流の推進



### 観光・商業

背景：多様で豊かな観光資源や自然環境



- デジタル・マーケティング※4の活用による情報発信
- 新しい生活様式に即した観光の活性化と賑わいの創出
- 関係人口※5の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- キャッシュレスの推進
- デジタルを活用したインセンティブ（報奨、奨励）付与による誘客や消費活性化の研究



## (2) 浜松らしいニューノーマル社会の実現を目指して

※番号を付した用語はP21～P22で説明

### リモートワーク・多拠点居住

背景：リモートワークや多拠点居住等の需要の高まり



- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進【再掲】
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進【再掲】
- リモートワークやテレワーク※6の推進
- テレワークパーク構想※7の推進
- 副業・兼業人材の活用促進



### 見守り・災害対応

背景：安全・安心な生活の追及



- IoT等を活用した高齢者や子どもの見守り推進
- 災害予測や災害状況の効果的な把握
- 災害関連情報の効果的な提供
- 避難所の効果的な3密対策



### 教育・子育て

背景：子育て世代を全力で応援するまち



- <sup>ギガ</sup>OGIGAスクール構想※8の実現に向けた教育環境整備
- オフライン授業とオンライン授業のハイブリッド（組み合わせ）による持続可能な教育の推進
- OICT（情報通信技術）等を活用した子どもや子育て世代への効果的な情報提供や相談体制の構築



### デジタル・ガバメント

背景：コロナ禍におけるオンライン化等のニーズの高まり



- 書面規制・押印・対面規制等の見直し
- 行政手続きのオンライン化やキャッシュレスの推進
- マイナンバーカードの取得促進とマイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充
- 多様な伝達手段による情報の提供
- OAIやICT等の活用による生産性の向上
- ODX推進に向けた職員の人材育成



## (3) デジタルの力で持続的・包摂的社会を構築

※番号を付した用語はP21～P22で説明

### モビリティ

**背景：人口減少による公共交通や各種サービスの持続的・包摂的な社会構築の要請**

8 高齢者がいる世帯の割合の増加  
9 産業と生活環境の調和のとれたまちづくり  
11 自治体間の連携によるまちづくり

- モビリティとサービスの連携による持続可能なまちづくりの推進
- モビリティサービス推進コンソーシアムを中核とした官民連携によるプロジェクトの創出
- 医療MaaS<sup>マース</sup>※9の推進
- フードデリバリープラットフォーム※10の推進
- テレワークパーク構想の推進【再掲】

### 社会参加促進

**背景：多様で包摂的な社会構築の要請**

1 高齢者を支える  
5 ジェンダー平等を推進しよう  
10 高齢者の活躍を促そう  
16 平和と公正をすべての人に  
17 持続可能な開発目標を推進しよう

- AIやICT等の活用による障壁の除去
- バリアフリー情報等のオープンデータ化の促進
- 情報へのアクセシビリティ※11の向上
- ICT技術やSNS<sup>エスエヌエス</sup>※12等を活用した市民参加の促進
- シニア向けスマートフォン講座等の充実

### インフラ

**背景：全国で2番目に広い市域とインフラの老朽化**

11 自治体間の連携によるまちづくり  
12 つくば未来をつかおう

- ドローンやセンサー等の活用によるインフラの老朽化対策
- 点群データ※13などインフラ情報のデジタル化
- 都市のデジタル化推進におけるインフラの利活用や高度化の検討

### エネルギー・循環型社会

**背景：再生可能エネルギー導入容量 日本一 環境と共生した持続可能な社会実現の要請**

7 自然エネルギーを推進しよう  
11 自治体間の連携によるまちづくり  
13 気候変動に具体的な対策を  
15 持続可能な消費と生産

<sup>アールイー</sup>

- 「浜松市域“RE100”※14」の実現に向けた推進
- スマートコミュニティ※15、スマートタウン※16のモデルの構築
- スマートプロジェクト※17の実現
- 新清掃工場及び新破砕処理センターをモデルとしたサーキュラーエコノミー※18の推進

## (4) 共創の基盤を構築し、より強固なものに

※番号を付した用語はP21～P22で説明

### 官民共創による推進体制の強化

背景：官民連携の中核となるプラットフォームの設立



- 浜松市フェロー※19等外部人材の活用
- 官民共創によるプロジェクト創出に向けたアイデアソン※20等の開催
- 次代を担う若者世代の巻き込み
- 官民連携プラットフォームを活用した分野間の連携促進
- シビックテックとの連携や共創



### 人材育成

背景：DX推進を担う人材の確保や育成の必要性の高まり



- 次代を担う若者の育成
- データ利活用に関するセミナーやハッカソン※21等の開催
- シニア向けスマートフォン講座等の充実【再掲】
- 人材育成におけるリモートやオンラインセミナー等の活用
- 人材育成における大学やCode for Japan※22等との連携

コード・フォー・ジャパン



### データ連携基盤の整備やオープンデータの拡充

背景：分野横断のデータ利活用による地域課題の解決を目指すまちづくりの推進



- データ流通のハブ（中継地）となるデータ連携基盤と利活用
- データ連携基盤の活用事例の創出（「ORI-Project」※23の推進）  
オリ-プロジェクト
- オープンデータプラットフォーム（ODPF）の整備と利活用
- 点群データのオープンデータ化と利活用促進



### 通信基盤等の整備や利活用促進

背景：デジタル時代のインフラとしての通信基盤のニーズの高まり



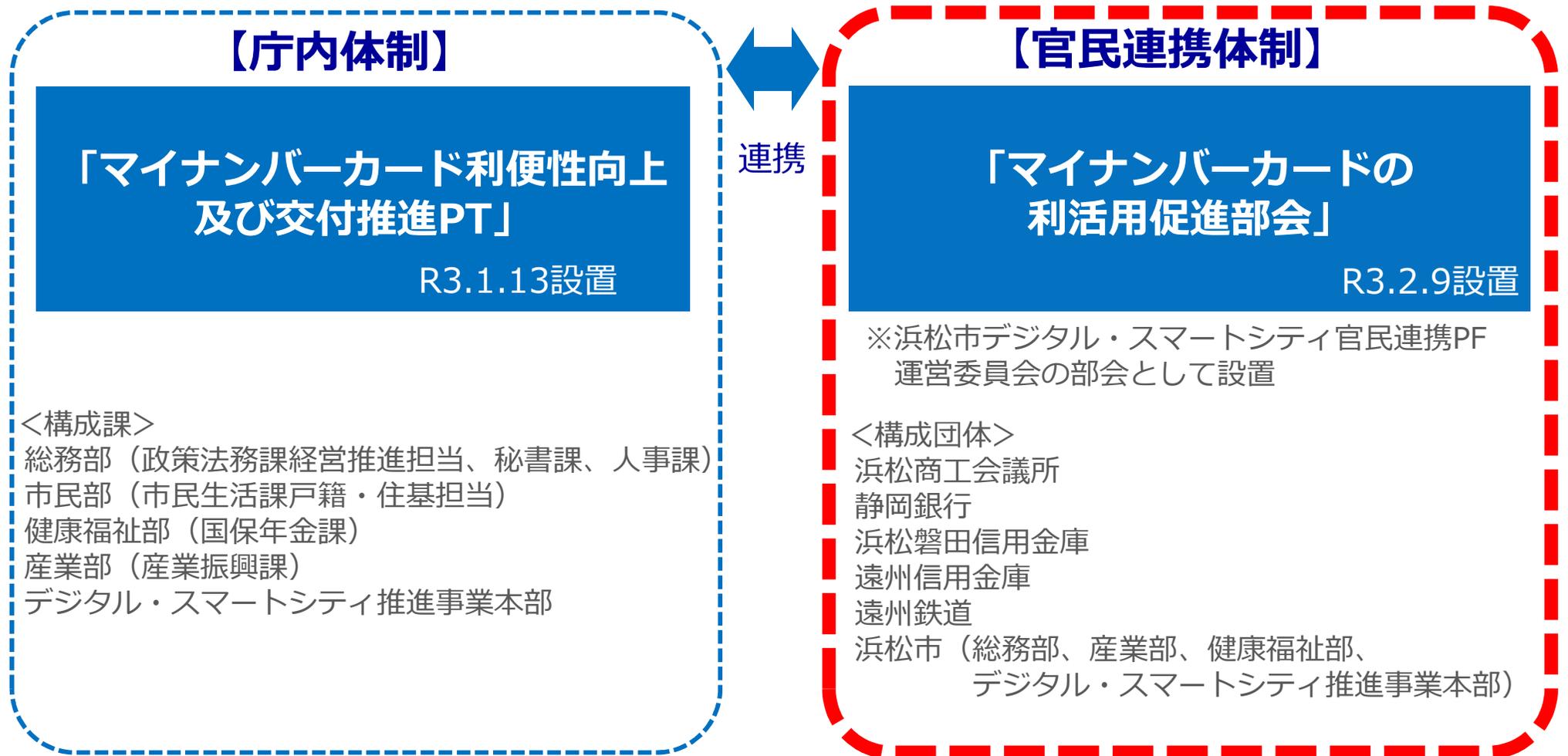
- 中山間地域等への光ファイバ網の整備支援
- 5G※24アンテナ基地局の設置や利活用の促進
- 各種通信（高速・低速等）活用の事例の共有と横展開
- 活用事例の創出やニーズ喚起による各種通信インフラ整備の働きかけ



<p>※1 スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市</p>	<p>内閣府が経済面や技術面など様々な支援を行うことで世界と同等に戦える日本企業の創出を目指し、全国で4地域を選定</p>
<p>※2 サテライトオフィス</p>	<p>企業や団体の本社・本拠から離れた場所に設置されたオフィスのこと。</p>
<p>※3 ユネスコ創造都市 (音楽分野)</p>	<p>文学、映画、音楽、クラフト&amp;フォークアート、デザイン、メディアアート、食文化の分野において世界でも特色ある都市を認定する事業として、2004年にユネスコ創造都市ネットワークが創設された。浜松市は、2014年12月に音楽分野での加盟が認定された。</p>
<p>※4 デジタル・マーケティング</p>	<p>インターネットやIT技術など「デジタル」を活用したマーケティング手法のこと。 ビッグデータ技術やAIなどを活用して顧客の嗜好や行動を分析し、隠れたニーズやトレンドまでを考慮して行われる。</p>
<p>※5 関係人口</p>	<p>特定の地域と多様に関わる人々のこと。</p>
<p>※6 テレワーク</p>	<p>情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。</p>
<p>※7 テレワークパーク構想</p>	<p>車や駐車場を活用することでより良いテレワーク環境をつくり、浜松市をあげてテレワークを促進していくために「浜松テレワークパーク実現委員会」により発案された構想。</p>
<p>※8 ギガ GIGAスクール構想</p>	<p>文部科学省が提唱する構想。一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、子供の資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するとしている。</p>
<p>※9 マース MaaS</p>	<p>「Mobility as a Service」の略。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせ検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる。</p>
<p>※10 フードデリバリープラットフォーム</p>	<p>飲食のデリバリー、テイクアウトにおいて発注・決済から配達依頼、配送までを一元管理する仕組み。 浜松市内ではFoodelixというプラットフォームが構築されている。</p>
<p>※11 アクセシビリティ</p>	<p>【accessibility】近づきやすさ、利用しやすさ、などの意味を持つ英単語で、ITの分野では機器やソフトウェア、システム、情報などが身体の状態や能力の違いによらず様々な人から同じように利用できる状態やその度合いのことを指す。</p>
<p>※12 エスエヌエス SNS</p>	<p>「Social Networking Service」の略。人と人との社会的な繋がりを維持・促進する様々な機能を提供するオンラインサービス。</p>

※13	点群データ	点の集合によって物体の構造などを表現するデータ。
※14	オールイー 浜松市域“RE100”	市内の総消費電力に相当する電気を、市内の再生可能エネルギーで生み出すことができる状態（RE100の考え方を参考に市独自に定義したもの）。RE100：使用する電力の100%を再生可能エネルギーにより発電された電力にすることに取り組んでいる企業が加盟している国際的な企業連合。
※15	スマートコミュニティ	再生可能エネルギーや蓄電池等の様々なエネルギー設備とエネルギーマネジメントシステム（CEMS）が導入された施設などが集合した街区であり、電力に加え、熱や水等の生活インフラも最適制御された社会（街区）。次世代エネルギー・社会システムとして注目されている。
※16	スマートタウン	住宅・都市開発において、環境負荷の低減と暮らしの質の向上を目指した持続可能なまちのこと。
※17	スマートプロジェクト	本市のエネルギー分野における「エネルギー・スマートシティ（エネルギーに対する不安のない強靱で低炭素な社会）」の実現に向けたプロジェクト。
※18	サーキュラーエコノミー	「循環経済」のことで、従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」の「線形経済」に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済を指す。
※19	浜松市フェロー	デジタル技術、データ活用、デジタルマーケティングその他のデジタル・スマートシティに関する専門的知識、経験等を有する者のうち、本市のデジタル・スマートシティ推進に関して、専門的立場から支援、助言を行う者。
※20	アイデアソン	「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、アイデアの創出を目的としたイベントのこと。
※21	ハッカソン	「ハック（プログラムの改良）」と「マラソン」を組み合わせた造語で、ソフトウェア開発に関わる人々が集まって、集中的にプログラムやサービスの開発を行うイベントのこと。
※22	コード・フォー・ジャパン Code for Japan	「ともに考え、ともにつくる」をコンセプトに、民間と行政が共に技術活用をしながら課題解決を行っていく場づくりを行う非営利団体。2013年10月25日設立。
※23	オリ・プロジェクト ORI-Project	「Hamamatsu Open Regional Innovation Projectの略称。ORIと織(おり)をかけ、遠州織物をはじめとした繊維の街・浜松で、糸を紡ぐように官民が連携し新たなイノベーションを起こすことを目指す
※24	ファイブ・ジー 5G	第5世代移動通信システムのこと。超高速通信や、多数の機器が同時にネットワークに繋がる「多数接続通信」、遠隔地でもロボット等の操作をスムーズに行える「超低遅延通信」が可能になる予定。

## 4 マイナンバーカード利活用促進部会 の設置について



マイナンバーカードの「普及促進」と「利活用促進（活用した官民のサービス創出）」を両輪として推進

# マイナンバーカードの利活用促進部会の概要

## <構成>

アドバイザー：浜松市フェロー 日下氏

事務局：浜松市デジタル・スマートシティ推進事業本部（瀧本・寺田）

所属名	お名前
浜松商工会議所 理事（運営委員）	柰屋英夫
(株)静岡銀行西部カンパニー 営業推進担当部長（運営委員）	山本重雄
浜松磐田信用金庫 経営企画部IT戦略企画室 調査役（運営委員）	田尾晃俊
遠州信用金庫 常務理事（運営委員）	鈴木靖
遠州鉄道(株) 取締役（運営委員）	野村和徳
浜松市デジタル・スマートシティ推進事業本部長	朝月雅則
浜松市総務部参事（政策法務課経営推進担当課長）	山本治之
浜松市産業部次長（産業振興課長）	江馬正信
浜松市健康福祉部健康増進課副参事	鈴木久仁厚

※必要に応じ随時メンバーを追加

## <設置期間>

令和3年2月9日から令和4年3月31日 ※必要に応じ延長

## <主な活用内容>

### ■ 普及促進（共通課題）

マイナンバーカードの普及促進に向けた活動（部会での共通課題）

### ■ 利活用促進（共通・個別）

民間部門でのマイナンバーカードを活用したサービスの創出や官民連携によるワンスオンリーの手續きの実現など、マイナンバーカードを活用した市民の利便性向上や地域の活性化を目的とする活動

- 3月末までにマイナンバーカードを申請した方が対象
- マイナポイント最大25%還元（25,000円の利用で5,000円還元）
- 周知にご協力下さい！

[トップ](#)[マイナポイント  
とは？](#)[マイナンバーカード  
について](#)[マイナポイントの  
予約・申込方法](#)[対象となる  
決済サービス検索](#)[マイナポイント  
手続スポット検索](#)

マイナポイントは **期間延長！**  
**2021年9月末まで！**

2021年3月末までにマイナンバーカードを申請した方が対象です



[> 詳しくはこちら](#)

# 5 (仮) スマホやICTお出かけ講座

# (仮)スマホやICTお出かけ講座

- 令和3年度に「(仮)スマホやICTお出かけ講座」を新規開始予定。
- 官民連携プラットフォーム会員と連携し、スマホの使い方やテレビ会議の開催方法等に関するお出かけ講座をメニュー化し、協働センターや地域の団体等に講師を派遣する。

## 目的

デジタル・スマートシティの推進にあたり、デジタル技術の活用による恩恵を誰もが受けることができるように、高齢者等を対象にしたスマホの使い方やテレビ会議の開催方法等に関する講座や相談会に講師を派遣する制度を創設し、官民連携で市民QoLの向上や包摂的な地域づくりを目指すもの。

## 実施主体

実施主体（企画運営）：  
浜松市、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム  
協力団体（講師派遣）：  
官民連携プラットフォームの会員から募集

## 実施内容

上記の実施主体が、官民連携プラットフォームの会員から協力団体を募集し、スマホの使い方やテレビ会議の開催方法等に関するお出かけ講座をメニュー化し、協働センターや地域の団体等に講師を派遣する。

## 対象者

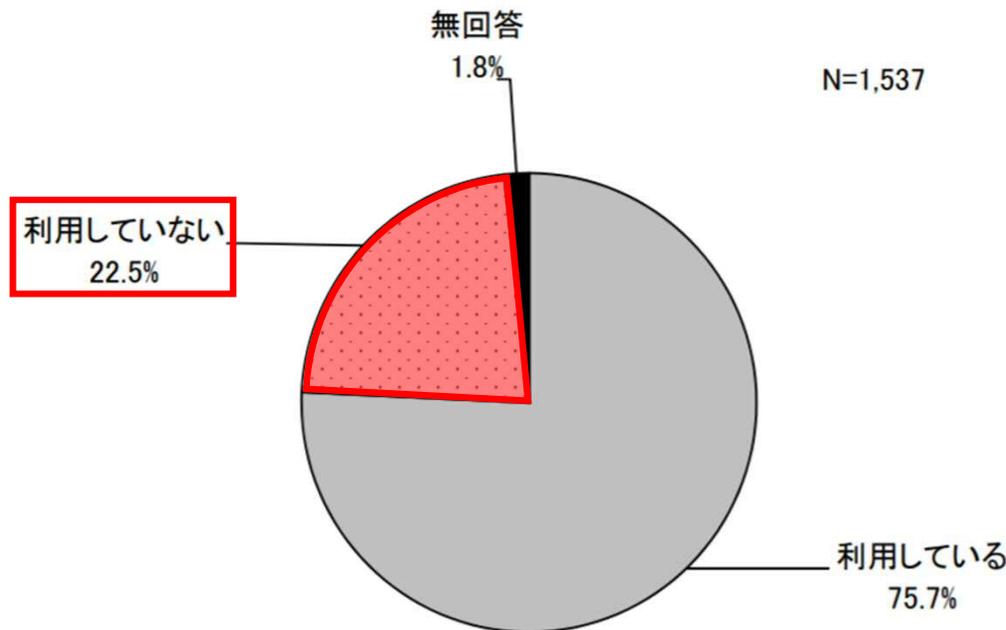
講座の実施は、原則として市内に在住、勤務又は在学する者で構成する団体で、当日の講座参加者が原則10人以上見込まれるものを対象に実施する。

# 本市におけるインターネット利用状況



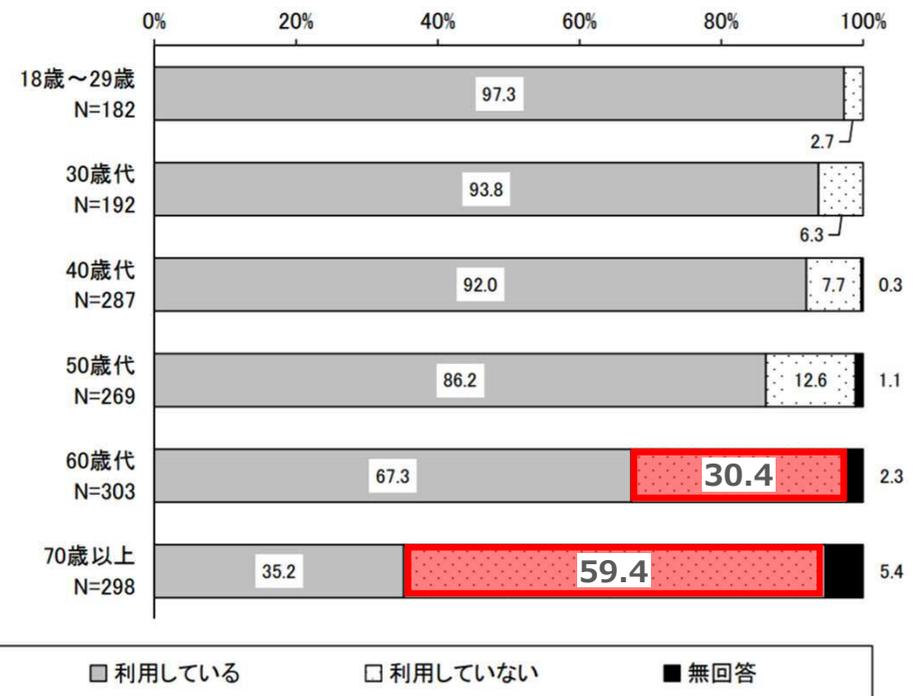
- 市民アンケートの結果、インターネットを過去1年間に自宅で「利用していない」人は22.5%であり、その内60歳代は30.4%、70歳代は59.4%であった。
- デジタル技術の活用による恩恵を誰もが受けられる社会を目指す上で、こうした「インターネット未利用の市民」や「苦手意識を持つ市民」へのサポートは、デジタル・スマートシティの推進において必須である。

インターネット利用状況



年代別

【年代別】



浜松市「第47回市民アンケート調査報告書」より

デジタル技術活用に向けたサポートが必要

# 講座テーマとレベルについて

- 市民生活をより便利にする、または行政サービスを活用しやすくするため、「スマートフォン」「パソコン・インターネット」「デジタルツール・アプリケーション」の3つを講座テーマとした。
- それぞれのテーマにおいて、はじめての方が「まず触れる」ことを目的としたレベル①、所持しているが苦手意識のある方が「少し便利に使う」ことを目的としたレベル②の2段階とした。



スマートフォン



パソコン・インターネット



デジタルツール・アプリケーション

	スマートフォン	パソコン・インターネット	デジタルツール・アプリケーション
レベル① はじめて 「触れる」	<p>スマートフォンを持っていない、ガラケーしか持っていない、使い方がわからない方向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォンの使い方</li> <li>インターネットの使い方</li> </ul> <p>など</p>	<p>パソコンを持っていない、インターネット環境がない、使い方がわからない方向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パソコンの使い方</li> <li>インターネットの使い方</li> </ul> <p>など</p>	<p>LINEやZOOMなど、アプリケーションの使い方がわからない方向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ZOOMの参加方法</li> <li>YouTubeの見方</li> <li>LINEの使い方</li> </ul> <p>など</p>
レベル② 基本 「使う」	<p>スマートフォンを持っていて、もうちょっと便利に使いたい方向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Bluetooth機器の使い方</li> <li>マイナンバーカードの連携</li> <li>電子マネーの使い方</li> </ul> <p>など</p>	<p>パソコンやインターネット環境があり、もうちょっと便利に使いたい方向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>便利な機能の紹介</li> </ul> <p>など</p>	<p>LINEやZOOMなど、アプリケーションやツールをもうちょっと便利に使いたい方向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ZOOM会議の主催方法</li> </ul> <p>など</p>

# 協働センター向けトライアル講座

# 講座概要

- ・ 市内協働センター等の事業として、5月～7月の間に試験的に講座を実施。
- ・ 協働センター向けトライアル講座ではスマホ講座レベル①を開催。



スマートフォン



パソコン・インターネット



デジタルツール・アプリケーション

**レベル①**  
はじめて  
「触れる」

スマートフォンを持っていない、ガラケーしか持っていない、使い方がわからない方向け

- ・ スマートフォンの使い方
- ・ インターネットの使い方

など

パソコンを持っていない、インターネット環境がない、使い方がわからない方向け

- ・ パソコンの使い方
- ・ インターネットの使い方

LINEやZOOMなど、アプリケーションの使い方がわからない方向け

- ・ ZOOMの参加方法
- ・ YouTubeの見方

など

**協働センター向けトライアル講座ではスマホ講座レベル①のみとなります。**

**レベル②**  
基本  
「使う」

スマートフォンを持っていて、もうちょっと便利に使いたい方向け

- ・ Bluetooth機器の使い方
- ・ マイナンバーカードの連携
- ・ 電子マネーの使い方

など

パソコンやインターネット環境があり、もうちょっと便利に使いたい方向け

- ・ 便利な機能の紹介

など

LINEやZOOMなど、アプリケーションやツールをもうちょっと便利に使いたい方向け

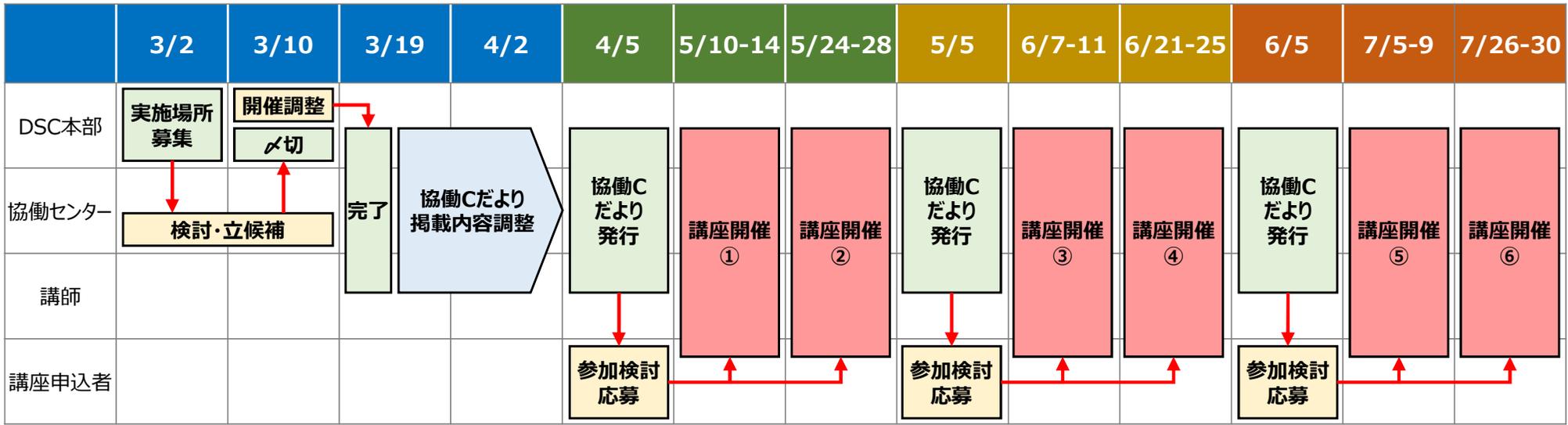
- ・ ZOOM会議の主催方法

など

# トライアル講座の開催について

- 協働センター等を開催場所として、5-7月の間に月2回ずつ実施。
- 開催を希望する場合、3/10までにデジタル・スマートシティ推進事業本部へ連絡する。

## お試しプラン開催フロー



### 講座の構成

- ✓ 合計時間は概ね1-2時間を想定。
- ✓ 各講座の共通コンテンツとして、開会時に「デジタル・スマートシティ推進の概要説明」を、講座の後には「それぞれの講座に関連した本市の取組紹介」を実施する。

10分	開会、デジタル・スマートシティの取組ご紹介
40分 ~ 100分	テーマ別講座
10分	質疑応答

### 開催に関する条件

- 講師**  
講師候補より1者選定。
- 費用負担**  
講師料は無料とする。  
講座に必要な設備は協働センター等が、スマホは講師が準備する。
- 日時**  
講師派遣の時間は、午前10時から午後15時までの間とする。
- 会場条件**  
最小催行人数10名以上、かつ各参加者同士の間隔を1.5m以上開けることが出来る会場を準備するものとする。  
その他、アルコール消毒や検温の準備をするものとする。

## 6 浜松ORI-Projectの報告

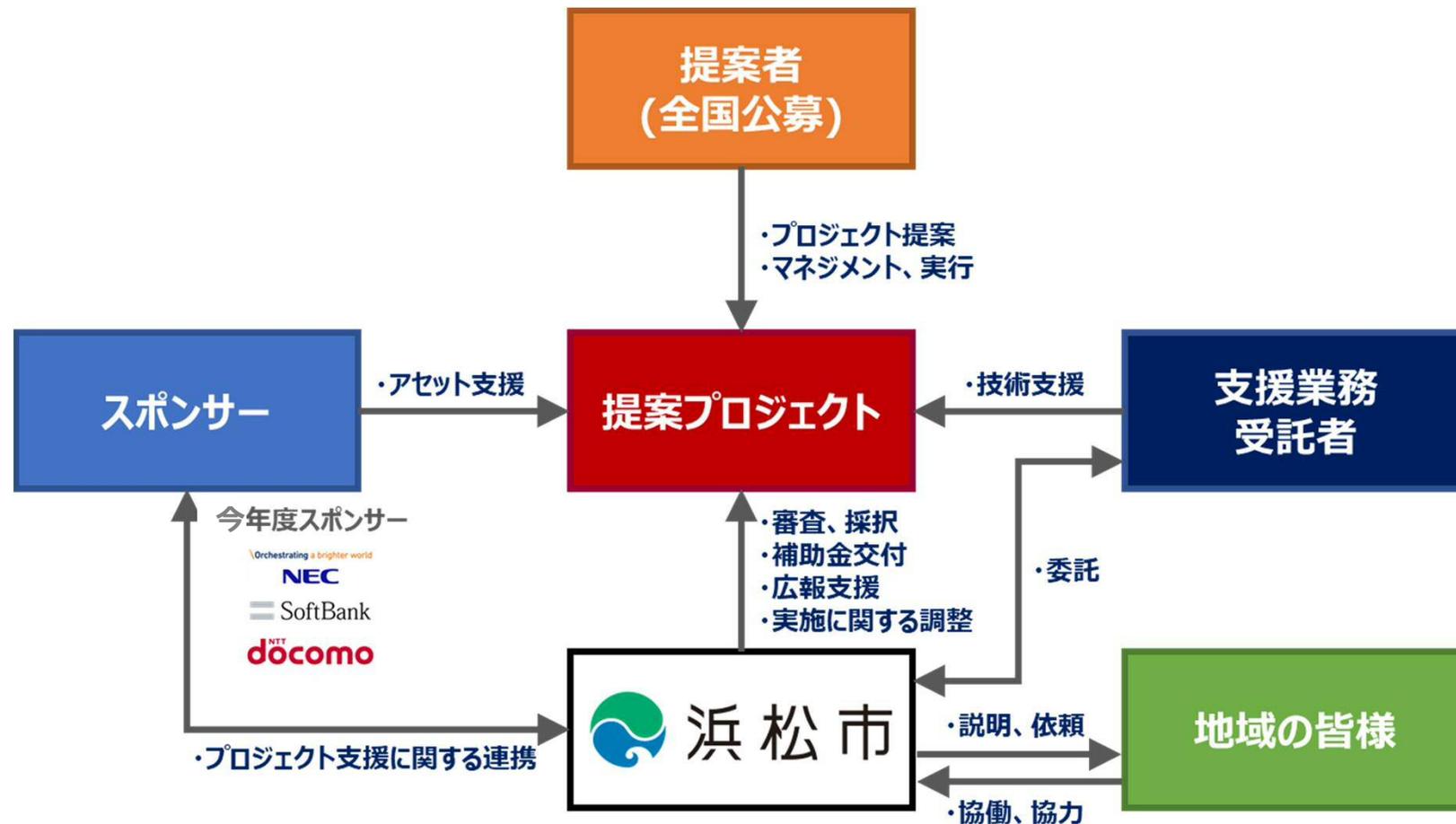
# Hamamatsu ORI-Projectとは

- 浜松市データ連携基盤を活用した実証実験を全国から公募するプロジェクト。
- 採択されたプロジェクトには、浜松市及びスポンサーより、実現に向けた多角的な支援を実施する。

▶ **Hamamatsu ORI-Project ( Hamamatsu Open Regional Innovation Project )**  
 正式名称：“デジタル・スマートシティ浜松” データ連携基盤を活用した実証実験募集プロジェクト

## プロジェクトの目的

浜松市データ連携基盤を活用した新たなアプリケーションやサービスの創出。



# 令和2年度の募集条件及び推奨テーマ

- 基本的な募集の条件は「データ連携基盤（実証環境）の利用」「浜松市がフィールド」。
- 募集条件とは別に「複数分野の連携」「COVID-19対策」を推奨テーマとした。

## 募集対象者

募集要領及び参加規約に同意し、主催者及び協力会社が提供するデータ連携基盤（実証環境）を利用した実証実験の実施を希望する法人又は個人。

## 対象となる 実証実験

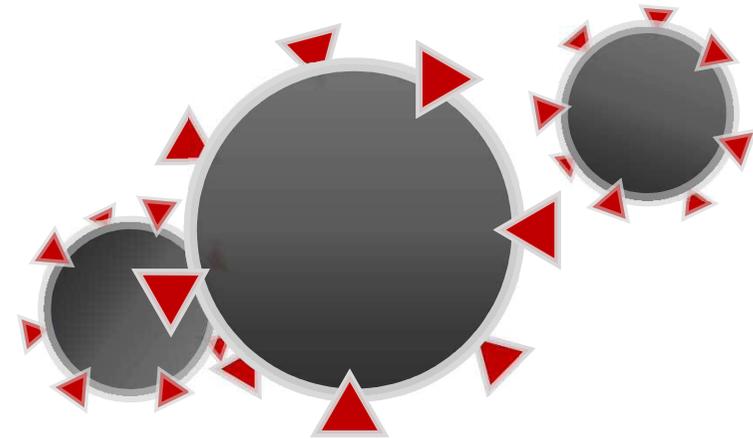
主催者及び協力会社が提供するデータ連携基盤（実証環境）を利用し、浜松市内をフィールドとした実証実験。

## 複数分野の連携



複数分野を巻き込んでスマートシティを推進できるプロジェクトを推奨。

## COVID-19対策



Withコロナ、Postコロナ社会を見据えたプロジェクトを推奨。

# 令和2年度のプロジェクト

- 2か月弱の応募期間を経て、スタートアップ、大学、個人事業主と様々なプレイヤーから19件のプロジェクトが提案された。
- 令和2年度は、その内8件のプロジェクトを採択。

## 全体スケジュール

	2020												2021		
小項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
全体スケジュール		募集			審査	実証実験									
主なイベント		5/15 ▲募集開始	6/1 ▲募集説明会	7/9 ▲募集〆切	8/1 ▲実証実験開始	8/3 ▲採択者向け説明会					2/28 ▲実証実験終了	3/19 ▲成果発表会			

## 採択プロジェクト一覧（※テーマ別、50音順）

テーマ	法人名・団体名	代表者氏名	所在地 (都道府県)	所在地	実証実験プロジェクト名称
複数分野の連携	株式会社クラ・ゼミ	倉橋 徒夢	静岡県	浜松市	きらりサポート・プロジェクト ※クラ・ゼミ支援のオープンデータ化、及び新たな遠隔支援の検証
複数分野の連携	静岡大学	木谷 友哉	静岡県	浜松市	高精度衛星測位を用いた市土保全モニタリング
複数分野の連携	株式会社スマートバリュー	渋谷 順	大阪府	大阪市	ORI-Projectデータビジュアライズ実証
複数分野の連携	パイフォトニクス株式会社	池田 貴裕	静岡県	浜松市	光と画像データを活用した中心市街地におけるムクドリ被害対策
複数分野の連携	梅林寺企画	川村 値雅子	静岡県	静岡市	児童・高齢者への支援ネットワークサービス（こども食堂連携・相互情報提供）
COVID-19対策	個人(浜松医科大学所属)	鈴木 哲朗	静岡県	浜松市	ウイルス感染の社会実験的シミュレーション
COVID-19対策	株式会社セールスフォース・ドットコム	小出 伸一	東京都	千代田区	避難所におけるCOVID-19感染防止対策の実証
その他	株式会社オサシ・テクノス	矢野 真妃	東京都	港区	冠水エリア予測システム

# 今年度のプロジェクトについて

- 各プロジェクトの実験結果や今後の展望は以下の通り。

募案者	実験の概要	実験の成果	今後の展望
パイフオニクス	ホロライトを活用し、ムクドリの反応を観察。ムクドリ画像データの解析や自動追い払い実験の実施。	ムクドリ追い払い効果を確認。自動照射装置の動作検証実施。画像解析やセンサー活用によるムクドリデータ入手。	追い払い装置の完全自動化やムクドリ以外の鳥獣への横展開を目指す。並行してデータ活用の可能性検討。
オサシ・テクノス	冠水を検知するセンサーを設置し、冠水エリアをモニタリングし、冠水メカニズムの解明や災害対応への活用を検討。	水位データの入手。機器設置に関する知見の獲得。水位データの解析。冠水エリアの地図上表示。	冠水時のデータ取得の為、梅雨時期・台風時期を含めた追加実証の検討。河川データ等を含めた解析の実施。
静岡大学	天竜区佐久間町大滝地区における、高精度衛星測位センサーを活用した地すべりエリアモニタリングの実施。	センサーの変位データの取得(精度は3mm)。太陽光発電を活用した継続的なデータ取得方法の確立。	梅雨時期や夏季における地盤変位の観測、観測範囲の拡大など通じ、高精度測位センサーの更なる有用性検証。
クラ・ゼミ	発達障がい児の遠隔支援の結果をデータ化し、遠隔支援の有効性を実証する。	浜松医科大学や浜松市発達相談支援センターと連携した分析によって、遠隔支援の有効性が実証された。	通所支援と遠隔支援の両輪運営の実現。ICTを使った支援、そのデータ化と分析、新たな支援モデルの創出。
浜松医科大学	スマートフォンとビーコンデバイスのセットによるシグナル送受信を指標としたウイルス感染シミュレーション。	ビーコンの電波強度を計測するアプリの開発、及び本アプリを活用した距離計測実験の実施。計測データの取得。	小規模な感染シミュレーション実験を実施し、実験システムを確立し、各種環境における社会実験実施を目指す。
梅林寺企画	オープンデータを活用した、必要な支援物資を可視化できる機能や、支援依頼と支援先とのマッチング機能構築。	市民の食品需要数算定機能、支援マッチング機能の完成。オープンデータ活用に関する知見獲得。	食品だけではなく、日用品・衛生品等も含んだ支援物資マッチング機能の構築。支援者を巻き込んだ実証実施。
スマートバリュー	FIWAREから「kibana」へデータを取り込み、各プロジェクトの実験データのビジュアライズ化の検証。	FIWAREとkibanaを接続した。「オサシ・テクノスデータ」「クラ・ゼミデータ」等の取り込み・ビジュアライズ化の実施。	自社のデータマネジメント基盤「Open-gov Platform」等のサービスにノウハウを活用。
セールスフォース	避難所管理アプリ(情報発信機能・避難者チェックイン機能など)を活用した市民参加型実証実験の実施。	地域防災訓練における実験にて、アプリを活用してスムーズに避難所を運営できることを確認した。	自社スマートシティサービスにおける防災分野において、今回の知見を活用していく。

# 実証実験の様子

- 令和2年度のプロジェクトにおいて、様々なフィールドで実証実験を実施。
- 内容によっては市民・企業にもご協力いただき、官民連携でプロジェクトを実行した。

ムクドリ対策実験(R2.10.6) @ ザザシティ浜松前



冠水エリア予測システム実験(R2.10.6) @ 若林北交差点付近



避難所管理アプリ実験(R2.12.6) @ 相生小学校



ウイルス感染シミュレーションアプリ実験(R2.12.16) @ 静岡大学



# 令和2年度のスポンサー支援実績

- 当初よりご協力を約束頂いていたスポンサーの皆様から、予定していた内容以上のご支援を頂いた。
- 非スポンサーである官民連携PF会員の丸紅(株)からも、実証実験に必要なiBeaconを急遽ご支援頂いた。

日本電気株式会社(プラチナスポンサー)



- データ連携基盤「FIWARE(実証環境)」を無償提供
- FIWAREに関する技術支援、説明会の実施



ソフトバンク株式会社(プラチナスポンサー)



- デバイス通信用のWi-Fiルーター・Simの貸与



株式会社NTTドコモ(ゴールドスポンサー)



- デバイス通信用のSimの貸与
- 実証実験用のスマートフォンの貸与



丸紅株式会社(非スポンサー)



- 実証実験用のiBeacon(Tag SE)50個の貸与



# メディア掲載実績

- 地元新聞紙をはじめとしたメディアに多く取り上げられ、こうしたデジタル活用や実証実験に対する注目度は非常に高まっている。

## メディア掲載実績一覧

発信日	種別	発信媒体
2020/5/15	プロジェクト全体	自治体通信
2020/10/7	パイフォトニクス	中日新聞
2020/10/7	パイフォトニクス	静岡新聞
2020/10/14	パイフォトニクス	静岡第一テレビ
2020/10/14	パイフォトニクス	SBSテレビ
2020/10/15	オサシ・テクノス	静岡新聞
2020/10/19	パイフォトニクス	名古屋テレビ
2020/10/20	パイフォトニクス	中京テレビ
2020/10/28	パイフォトニクス	テレビ静岡
2020/10/28	パイフォトニクス	日本経済新聞
2020/12/2	パイフォトニクス	静岡新聞
2020/12/2	パイフォトニクス	中日新聞
2020/12/5	パイフォトニクス	NHKニュース@全国
2020/12/6	セールスフォース	SBSテレビ
2020/12/7	セールスフォース	静岡新聞
2020/12/14	パイフォトニクス	静大朝日テレビ
2020/12/20	パイフォトニクス	BSテレビ東京
2020/12/21	パイフォトニクス	静岡新聞
2021/1/12	静岡大学	静岡新聞
2021/1/18	静岡大学	NHK静岡
2021/1/24	オサシ・テクノス	静岡新聞
2021/2/5	セールスフォース	NHK-FM和歌山

## ムクドリ対策実験(パイフォトニクス)



## 浜州市土保全モニタリング実験(静岡大学)

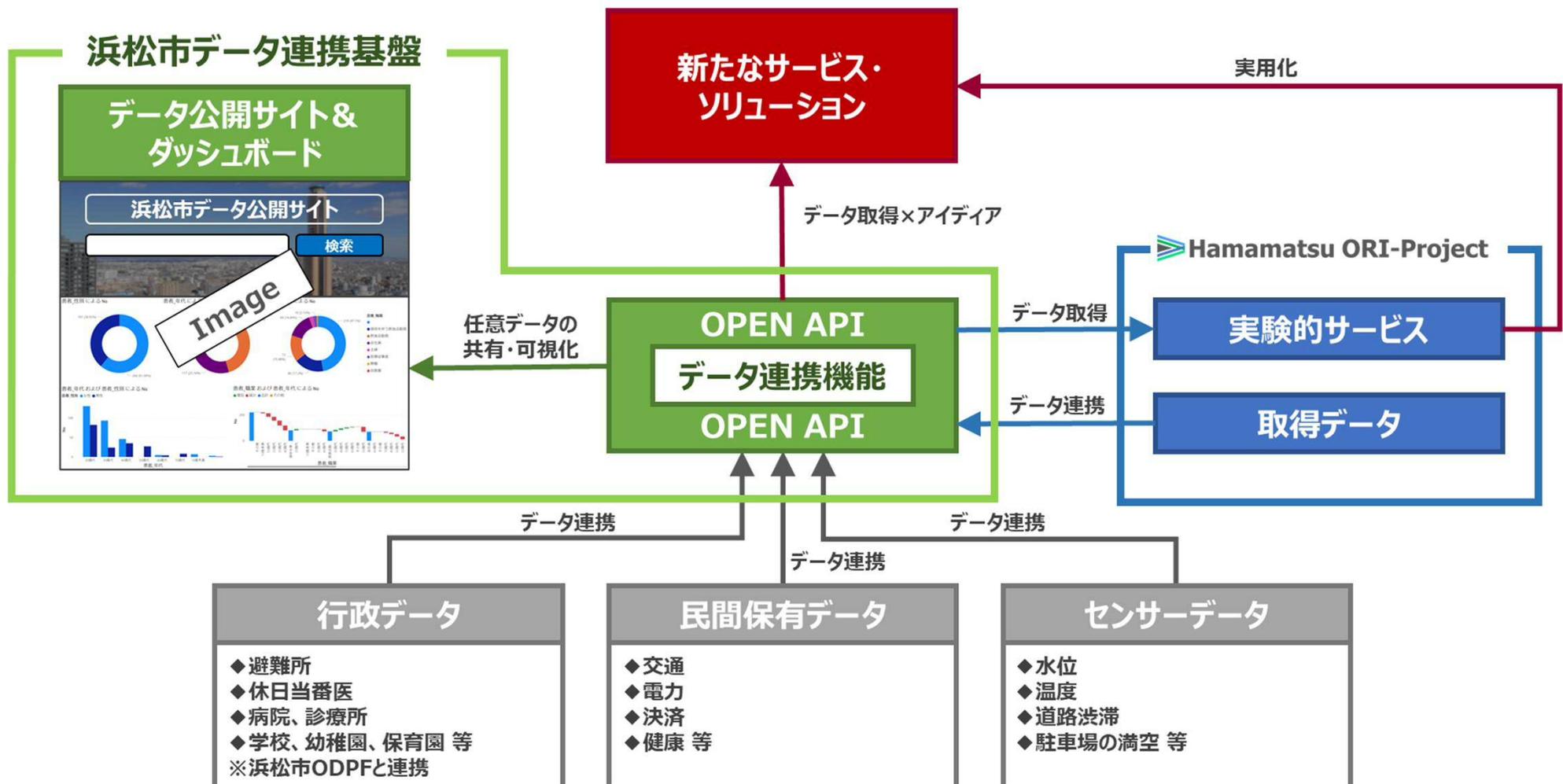


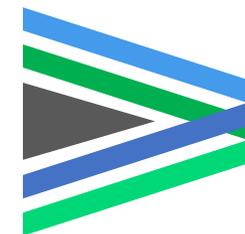
# 浜松市データ連携基盤について

- 浜松市データ連携基盤は、分散して存在する多種多様な基盤の「ハブ」となり、「データの流通・連携をサポート」する機能を有する。
- 令和3年度に整備予定であり、Hamamatsu ORI-Projectでは本基盤、または本基盤に準ずる機能を有する実証環境を用いて実施する予定。

## 浜松市データ連携基盤【概要図】

※令和3年度に整備予定





Hamamatsu  
Open Regional  
Innovation

# Hamamatsu ORI-Project

令和2年度 成果発表会

令和3年3月19日(金) 14:00 ~ 15:30



# 成果発表会 次第

<p>開会 主催より</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 14:00-14:05 (5分) 開会挨拶 / 朝月本部長</li> <li>• 14:05-14:15 (10分) Hamamatsu ORI-Project 概要報告 / 市橋</li> </ul>
<p>プロジェクト 報告ピッチ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 14:15-15:05 (50分)               <ul style="list-style-type: none"> <li>① パイフotonクス / 池田</li> <li>② 浜松医科大学 / 鈴木</li> <li>③ セールスフォース / 梁田 (ONLINE)</li> <li>④ 梅林寺企画 / 河村</li> <li>⑤ 静岡大学 / 木谷</li> <li>⑥ Oオサシ・テクノス / 古島 (ONLINE)</li> <li>⑦ クラ・ゼミ / 堀田</li> <li>⑧ スマートバリュー / 岩本</li> </ul> </li> <li>• 15:05-15:25 (20分) プロジェクトピッチ講評 / 朝月本部長・スポンサー</li> </ul>
<p>総括 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 15:25-15:30 (5分) 今後の展開について / 市橋</li> <li>• 15:30- 閉会</li> </ul>

## 7 来年度の取組

# 来年度の取組

項目		2021年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
共通	出前講座	受講申し込みに応じて随時開催											
デジタル・スマートシティ	官民連携PF運営委員会		●第1回運営委員会		●第2回運営委員会		●第3回運営委員会		●第4回運営委員会		●第5回運営委員会		
	官民連携PFピッチ・セミナー	各分野の取組紹介（オンライン） 年12回程度											
	データ連携基盤実証実験		募集	審査	実証実験							成果発表会▲	
	MONTH事業		主催事業検討		冠事業募集			選定		マンス	※時期調整中		
	モビリティサービス推進コンソーシアム		●セミナーⅠ	●アイデアソン①		●アイデアソン②		●セミナーⅡ					
	庁内連携	★第1回本部会議	★第1回WG		★第2回WG		★第3回WG		★第4回WG		★第2回本部会議		★第5回WG
デジタル・ガバメント	スマホやICTお出かけ講座		トライアル講座開催			スマホやICTお出かけ講座開催							
	先進技術導入庁内実証実験		募集・審査			実証実験							
	協働センター等Wi-Fi整備	順次▲機器配備	広報開始		運用開始								
	電子申請推進	実装に向けた検討・調整						住民票オンライン請求実装			他手続実装		
デジタル・マーケティング	相談支援		次年度事業相談支援①					次年度事業相談支援②					
	人材育成		★次年度事業相談会		★ワークショップ①		★ワークショップ②		★実務担当者セミナー①		★実務担当者セミナー②		★実務担当者セミナー③